



## — 編集後記 —



第29回オリンピックが今年（2008年）8月に中国・北京で開催されたことは記憶に新しい。4000年の中国の歴史の中で初めての開催だけに、中国当局の大会にかけるすさまじいまでの迫力を感じた。メダル数でも、アメリカを抜いてトップに躍り出た。十数億の人民の底力を感じる。開会式や閉会式では人・人・人の繰り広げる壮大な演技に、テレビの前に釘付けになる。中国の輝かしい歴史の一頁となったことだろう。

振り返れば、今年は中国にとって様々な事件を経験した。5月の四川大地震は、被害の甚大さもさることながら、規模の大きさに驚かされる。本州全域？が地震の被害にあったようなものである。犠牲になられた方々のご冥福と一日も早い復興を念じざるを得ない。また、大地震の影響を受けて、当初8月に上海で予定されていた国際非破壊試験会議（World Conference of NDT）が10月に延期されたことも関係者に地震の影響の大きさを痛感させている。この他、新疆ウイグル自治区やチベット自治区における少数民族の騒動も国際的に深い関心を寄せている。

4年に1度のオリンピックの一つの意義は、過去4年のスポーツ界の歴史を総括し、次のオリンピックへの決意を新たにすることにある。人もとかく人生の節目を迎えると過去を振り返ると共に新たな決意のもとに再スタートをきる習慣を持ってきた。成人式や還暦などがこれに当る。当社の技術誌 IIC REVIEW も創刊以来20年目に当る成人式を迎えた。これを機会に特集号を企画し、過去の技術活動の総括を試みた。

技術誌 IIC REVIEW の1号は、当社の創立15周年を記念して発行された。当初は、社内に対する技術誌として発行したものであるが、その後徐々に体裁を整えると共に、社外の方々への配布を拡大し、現在はかなりの方々にお届けすると共に、希望されるの方々への配布を続けている。

今回20周年記念号を編集するに当たり、今日の当社の技術が培われた背景に実に多くの社外の方々のご鞭撻やご協力のあったことを痛感し、感謝の念に堪えない。また、重工業をベースに培ってきた技術が、今や自動車、セキュリティ関連製品などの他分野でも活用いただいていることを喜んでいる。今回ご紹介したように、当社の技術は検査・計測をベースとして、各種の研究支援技術やシステム開発技術など多岐に及んでいる。これら幅広い技術を結集して皆様方のニーズにお答えできるように、決意を新たにしている。更なる Intelligent & Integrated Inspection Company を目指す所存であり、更なる皆様方のご指導とご鞭撻をお願いしたい。

編集委員長 荒川 敬弘